

# 地方民鉄紀行

文・写真

松澤美穂



### 福井鉄道株式会社

越前国府があつた街  
兵営により栄えた街  
寺社仏閣に古墳に城址  
日常の景色の中に  
各時代の面影が  
当然のように見え隠れする

大きな池に朱塗りの橋、池に張り出すように建てられた建造物。福井鉄道たけふ新駅から市民バスで約15分。紫式部公園は、平安時代の貴族の屋敷の庭「寝殿造庭園」が再現されている。

### 紫式部が暮らしていた

紫式部は「源氏物語」を執筆する前、二十歳くらいの頃、越前国司（県知事のような役職）になった父とともに、都を離れ「武生」の地で過ごしたことがある。紫式部公園は、それを記念して造られたもので、園内には紫式部像が立ち、公園の向かいには資料館もある。二〇二四年のNHK大河ドラマ「光る君へ」の放送前か放送中に来ていたら、もっとドラマが楽しめていたかもしれない。庭園と資料館の見学を終えバス停に戻るが、市民バスは運行本数が少ない。待ち時間ももつたないので、徒歩でたけふ新駅に戻る。

たけふ新駅から田原町方面の電車に乗り込み8駅進んで、神明駅で下車。明治時代、ここに日本陸軍鯖江歩兵第三十六連隊が設置されたことから、兵隊の輸送手段として福井鉄道が誕生したのでという。開業時の駅名は「神明駅」ではなく、ずばり「兵営駅」。駅周辺には、連隊の兵営にあつた「営門」が移築されて残されていたり、記念碑が立っていたりして、当時の面影が残されている。

### 福井鉄道誕生の街

軍隊の街として、商店街などが広がっていたエリアには、現在は住宅が立ち並び……突如、広々とした芝生の丸い丘が出現。丘の上には社、麓には鳥居、そして「国史跡 兜山古墳」の看板。どうやら古墳の上に神社が建てられているらしい。看板に記された解説を読むと、神社の境内であつたおかげで市街化の影響を免れ、北陸最大級の古墳が綺麗に残されていたのだという。実際、兜山古墳に隣接して、兜山北古墳、兜山南古墳があつたようだけれど、影も形も見当たらない。神社の影響はかなり大きかつたと思われる。

越前国府は総社大社（下）の近くにあつたのかもしれない。周辺の案内表示はこんな感じ。寺社仏閣が多い（左）。



寝殿造庭園を再現した「紫式部公園」(上)。園内に立つ紫式部像(下)は都の方を向いている。



## 福井鉄道

【ふくいてつどう】

たけふ新駅から田原町停留場を結ぶ福武線と、福井駅停留場から福井城址大名町停留場を結ぶ支線から成る。福武線「赤十字前駅」までは鉄道路線だが、それ以降は福井市内では路面電車に切り替わる。





福井鉄道には様々なラッピング電車が走っている(上)。福井市街地では路面電車になる福武線(左)。



兜山古墳。元は木々が生い茂った境内だったが、古墳の形が分かるように整備された。



移築された三十六連隊の営門。元々はもっと駅よりにあった。

### 鉄道線から路面電車に

福井鉄道には色々な形、ラッピングの電車が走っている。神明駅まで乗ってきたのは、相互乗り入れをしているえちぜん鉄道の黄色い超低床車両。沿線にある西山動物園にいるレッサーパンダのラッピングが施された電車が走っているのを見かけた。本日ここまで、ラッピングではない、基本デザインの電車をみた記憶がない。乗る電車、すれ違う電車が多種多様で面白い。「できればレッサーパンダの電車に乗りたかったな」と思いながら、神明駅にやってきた企業広告のラッピング電車に乗る。

車窓から見える景色は住宅街。田畑が広がる区間は短い。線路と左右に建ち並ぶ家々の距離が近そうに見える場所もあるけれど、電車はすり抜けるようにして走っていく。走る速度は結構速め。ところが赤十字前駅の辺りから、ガクッと速度が落ちてしまう。どうしたのかと思っていると、電車の左右を車が並走している。いつの間にか、鉄道線から路面電車に切り替わったらしい。

ここからは「駅」ではなく「停留場」になる。ゆっくりとしたスピードで滑り込んだ「商工会議所前停留場」で電車を降りる。

### 日本の歴史をたどる沿線

信号が変わるのを待って、車道の真ん中にある停留場から歩道に渡る。そのまま住宅街を抜けて少し歩いた先に見えてきたのは、足羽山。山中には、豊臣秀吉が北ノ庄(柴田勝

家)を攻めたときに陣を張った天魔ヶ池や寺社仏閣、大小様々な古墳がある。今日は寺社仏閣と古墳に縁があるらしい。ゆっくり見回りたけれど、足羽山は標高約116m。広さ約115ha。小高い丘くらいではあるものの、点在する古墳を巡るのは、徒歩だと難しい。兜山古墳で古墳は十分堪能したし、麓近くにある3つの神社を巡ることにする。

ところが、麓とはいえ、やっぱりそこは山。なかなか急な坂道や階段、木々の間を抜けて行く小道もある。武将・新田義貞公を主祭神とする藤島神社からスタートして、「くろたつさん」と呼ばれ親しまれているという毛谷黒龍神社をお参りし、継体天皇を祀る足羽神社にたどり着くころには、ぐったりしてきた。ただ、坂道・階段を登った甲斐は十分あって、木々に囲まれた神社は3社とも趣があり、見晴らしも良い。

休憩を兼ねて市街の景色を眺めているうちに、日が傾いて寒くなってくる。足羽山を下り、足羽山公園口停留場から福井駅・田原町方面の電車に乗る。福井駅停留場に近づくと大きな恐竜の模型に出迎えられる。隣接するJR福井駅の駅ビルの壁には恐竜が描かれている。そういえば福井は恐竜王国だった。

紫式部が暮らした越前国府に、明治時代の兵営。5・6世紀に造られた古墳が点在し、安土桃山時代や江戸時代の歴史の舞台が残る沿線。時代を行きつ戻りつしながら、日本史の教科書をピンポイントで見えてきたような気がする散策。もう少し足を延ばせば、日本最大の恐竜化石発掘現場にも行けるけれど、今回はここまで。お疲れ様でした。



JR福井駅に隣接する福井駅停留場。周辺に設置された恐竜模型の前は、観光客の撮影スポット。



藤島神社鳥居(上)、毛谷黒龍神社(左上)、足羽神社(左下)。足羽山には寺社仏閣や古墳などが点在し、福井市街が一望できた。